

生きものシンフォニー

いのちがやくなごや

令和4年9月

37号

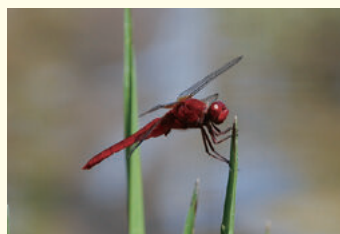
特集

小さな ビオトープの生きもの観察会 in なごや生物多様性センター



この春、センターに新設した「ビオトープ」で、初めての観察会が7月24日（日）に開催されました。

当日の参加者は、市内の小学生とその保護者16組。子どもたちはビオトープの生きものを採集したり、顕微鏡で観察したり、なごやに生息する水辺の小さな生きものに触れるひと時を楽しみました。



ショウジョウトンボ



ヌマガエル

CONTENTS

特集

ビオトープの小さな生きもの観察会 in なごや生物多様性センター

P1～2

TOPICS なごや生物多様性サマースクール2022 P3～4

標本に“ラベル”が付いているわけ P5

活動紹介 「あいちの海」グリーンマップ P6

掲 示 板 なごや生物多様性センターまつり・生物多様性ユースひろば P6

14

海の豊かさを
守ろう



15

陸の豊かさも
守ろう



17

パートナーシップで
目標を達成しよう



小さな ビオトープの生きもの観察会 in なごや生物多様性センター

センターでは、なごやの自然や身近な生きものを学び、体感してもらう場所として、今年3月にビオトープを整備。水辺の自然環境を再現しました。

オープンから4か月のビオトープには、どんな生きものが生息していたのでしょうか？



ビオトープって？

ビオトープ (Biotop) とは、ドイツ語でbio (生物) とtop (場所) を組み合わせた言葉で、動植物が生息・生育する空間のことをいいます。

水辺の生きものを調べよう

ビオトープを通して、身近な自然や生きものに興味を持ってもらおうと行われた観察会当日。子どもたちは、バケツでビオトープの水をくんだり、ビオトープ内の石を歯ブラシでこすったりして、プランクトンなどの小さな生きものを採集し、その後、顕微鏡で観察していきました。



プランクトン専用の網も使用



水辺をのぞきこんでじっくり観察



池の中の石に付着した生きものを採集

ミクロの世界へようこそ

オープンから4か月のビオトープには、オタマジャクシやゲンゴロウ、マツモムシ、カゲロウ、トビケラなど、多様な生きものが棲んでいることが判明!子どもたちは、それぞれの生きものの生態を学びながら、顕微鏡でミクロの世界をのぞいていました。

さらに、今回採集した生きものたちは食物連鎖でつながっていること、プランクトンはその基盤となっていることなども学びました。

「数か月のビオトープで、これだけ見つかるのはすごい。こまめに観察すると、移り変わりが分かって面白いですよ」と水生生物の専門家からの講評。このビオトープにこれから、どんな生きものがやってくるのか楽しみです。



子どもも大人も、小さな世界に夢中!



カゲロウの一種



ヤゴ (トンボの幼虫)



マツモムシ

さっそくトンボの
棲みかには!?





なごや生物多様性 サマースクール 2022

なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）主催のサマースクールが今年も開催されました。さまざまな生きものとふれあい、自然を体感する全11講座で、昆虫や川の生きものなどの専門家による指導のもと、子どもたちはたくさんのことを学習。生きものとの距離がグッと近くなりました。



7/23 (土)

竹林調査と水鉄砲作り
講師：花水緑の会（大高竹の会）



7/30 (土)

巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう！
講師：相生山緑地オアシスの森くらぶ



7/30 (土)

チョウの採集と標本づくり
講師：名古屋昆虫同好会



7/30 (土)

甲虫の採集と標本づくり
講師：名古屋昆虫同好会



7/31 (日)

猪高緑地の水の生き物観察
講師：名東自然倶楽部



8/1 (月)

植田川の水生生物調べ
講師：名古屋市環境科学調査センター



8/2 (火)

外来種の昆虫を捕って駆除しよう
講師：なごや外来種を考える会



8/3 (水)

大矢川源流の生きもの探し
講師：愛知守山自然の会



8/6 (土)

天白川の水源を訪ねてみよう
講師：名古屋自然観察会



8/6 (土)

調べてみよう！川の生きもの
講師：NPO法人日進野菜塾



8/8 (月)

池のプランクトンの世界
講師：名古屋市環境科学調査センター



猪高緑地の水の生き物観察

7月31日(日)

講師：名東自然倶楽部 場所：猪高緑地すり鉢池

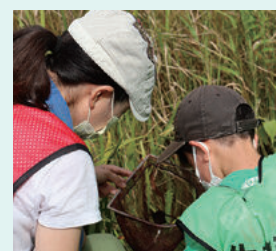
昨年、池干しを行った猪高緑地のすり鉢池。この日は、水辺の生きものを観察しました。

3グループに分かれた子どもたちは、生きものをタモ網で池の端に追い込むガサガサという方法を体験したり、仕掛けた罠を引き上げたり、展示しているザリガニを触るなど、さまざまなことを実践。講師に「網を自分の方へ引き上げるといいよ」と聞くと、池に身を乗り出しながら一生懸命ガサガサし、大量のザリガニを捕まえていました。

すり鉢池で捕まえたのは、カワリヌマエビ属の一種やミナミメダカ、モツゴ、アメリカザリガニ、カダヤシなど。外来種も見つかったことから、なぜ外来種が増えたのか、増えるとうどうなるのかなどの説明も受け、子どもたちは真剣に聴いていました。



ザリガニの
オスとメスの
仕分けに挑戦！



いのちを
守ってこう！



草むらを狙って
捕獲！
何がいるかな？



顕微鏡で
生きもの観察！



生きものの特徴を学ぶ参加者ら

植田川の水生生物調べ

8月1日(月)

講師：名古屋市環境科学調査センター 場所：植田川

センターの隣を流れる植田川で、水生生物の調査を行いました。

子どもたちは、保護者と一緒に草むらを狙いながら、ガサガサで生きものを採集。魚類ではカダヤシやタモロコ、ヨシノボリ類、カワリヌマエビ属の一種など。昆虫類は、コヤマトンボのヤゴ、カゲロウの一種、ユスリカ類、ヒルの仲間などが見つかりました。

この結果に講師は「意外と種類が少なく寂しい」とのこと。また、この水生生物から分かるのは、植田川がどんな水質なのかということ。捕まえた生きものの中には、汚い水に生息するヒル類や、汚さに強いユスリカがいることから、植田川は汚いと、とても汚いの間では…という判定となりました。参加者らは、棲んでいる生物によって水質が違ってくことを理解しました。



標本に“ラベル”が付いているわけ



現在、なごや生物多様性センターには約2万点の標本が収蔵されています。標本の収集目的や活用方法、保管方法は過去のシンフォニー（34号、36号）などでも紹介してきましたが、今回は標本にとって最も重要な「標本ラベル」について紹介します。

「標本ラベル」とは、生きものの名前（種名）や、その生きものを「いつ」「どこで」「誰が」採集したのかといった情報が書かれているラベルのことです（写真1）。標本ラベルの形や様式は、標本ごとに様々ですが、どの標本にも共通して最低限必要とされる情報が、「採集地」と「採集年月日」です。これら2つの情報がそろってはじめて、標本を調査・研究に活用できるのです。例えば、センターでは外来種防除を目的として名古屋市内のアライグマを捕獲して、骨格や毛皮などを標本として残しています。この際、採集地や採集年月日が書かれた標本ラベルがあることで、市内におけるアライグマの分布やその変遷を知ることが可能となり、防除対策を検討する際の貴重な資料となります。もし、標本ラベルがなければ、アライグマという動物の姿かたちを知ることは出来たとしても、調査・研究用の資料としては役に立ちません。

標本ラベルを標本のどこに付けておくかは、分類群や標本の保管方法によって異なります。例えば、植物の^{さくよう}腊葉標本では、標本にした植物とラベルを1枚の台紙に一緒に貼り付けます（写真2）。哺乳類の毛皮標本（^{かりはくせい}仮剥製標本）では、^{あし}製図用インクで情報を書いた荷造り札を標本の肢に巻き付けます（写真3）。魚類や甲殻類などの液浸標本（エタノールなどの保存液に浸けられた標本）では、耐水紙に鉛筆、または製図用インクで情報を書いたラベルを保存液に浸った標本と一緒に入れておきます（写真4）。さらに、管理しやすいように、標本容器の外側にラベルを貼っておくこともあります。このように、標本そのものとラベルが別々にならないように保管しておくことが大切です。

ここ数年、センターでは収集した標本を使った展示や普及啓発にも力を入れています。センター館内での展示はもとより、名古屋市科学館と共同した展示も行っています。また、「環境デーなごや」などのイベントにブース出展するなどして、皆さんに標本を見ていただく機会が増えてきました。センターの標本展示を見かけた際は、標本だけでなく「標本ラベル」にもぜひ目を向けて下さい。

（生物多様性専門員：西部めぐみ・曽根啓子）

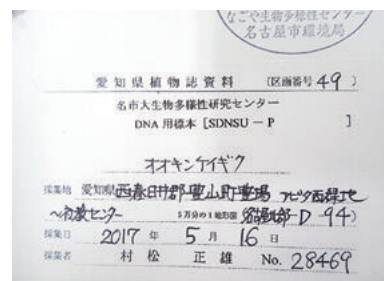


写真1：植物の「標本ラベル」



写真2：オオキンケイギクの腊葉標本



写真3：アライグマの仮剥製標本のラベル

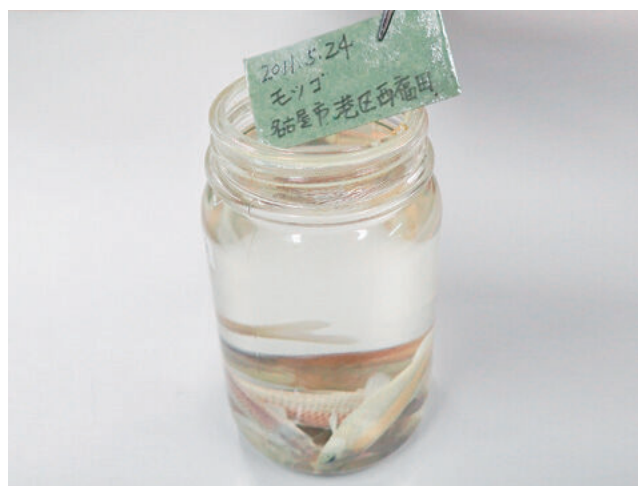


写真4：モツゴの液浸標本のラベル

活動紹介

「あいの海」グリーンマップ

「あいの海」グリーンマップは、2005年に開催された愛・地球博愛知県館愛知グリーンマップ2005に、世界初の海のグリーンマップを展示しようという目的を持って設立しました。

目の前に三河湾の干潟が広がる小学校で、海の環境学習を担当したことがあります。そのとき、子どもたちに「海という言葉から連想する場所は?」と尋ねたところ、返ってきた答えは、「沖縄」「ハワイ」「伊豆」・・・残念ながら、近くにある伊勢湾や三河湾という答えはいっさい返ってきませんでした。

「なぜ?」

「だって、愛知県の海はきたないでしょ。近寄りたくない。」

決して良い環境とは言えない愛知県の海にも素晴らしい生命の営みや自然の神秘があるのです。わたしたちは、身近な海の自然に魅せられ、それを周りの人たちに伝え

たいと願い、活動を継続しました。それが、海の環境を守る一番の近道だと思っていました。

しかし、残念ながら、2018年頃から毎年繰り返される猛暑は、ようやく生き残った浅海の自然をむしばんでいます。観察会を通じ、愛知県の海の生態系が、めまぐるしく変わっているのを感じます。

夏場に足を滑らせるほど密生していた岩場のアナアサガが激減し、岩の表面が^{かきがら}でゴツゴツしています。磯を黄色く覆っていたアメフラシの卵塊も見なくなりました。わたしたちは、地球温暖化が身近な生態系を破壊しているという事実を伝えないといけなくなりました。



掲示板

なごや生物多様性センターまつり

令和
4年 10/29 土

10:00~15:00

会場 なごや生物多様性センター

小雨
決行

入場
無料

生きものとの触れ合いや標本の観察、講演、ワークショップなど、子どもから大人まで「生きものたちの豊かさやつながりの大切さ」を楽しく学べるイベントを開催します。

同時
開催

生物多様性ユースひろば

中学・高校の生物部などの生徒が、日ごろの活動成果を発表します。



「市民生きもの調査員」に登録しませんか?



生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。どなたでも登録できます。詳しくは協議会ウェブサイトで!



問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104(平日 8:45~17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生きものライブラリー

なごや生きものライブラリー 検索

<https://ikimono.city.nagoya.jp/>



名古屋市公式サイト

<https://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会

<http://bdnagoya.jp/>

地下鉄塩釜口駅
2番または3番出口から
徒歩5分



生きものシンフォニーのバックナンバーは、なごや生物多様性センターのウェブサイト「なごや生きものライブラリー」でご覧いただけます。